

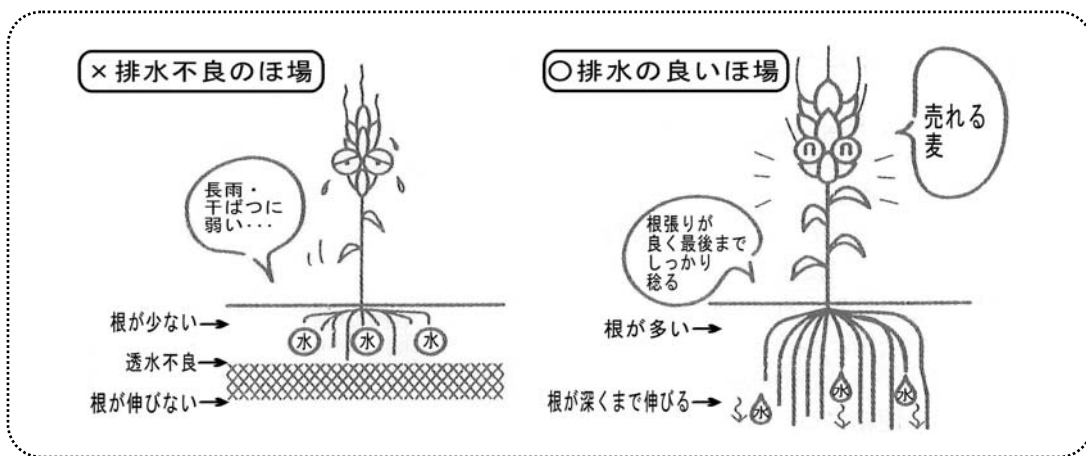
大麦特報 (第2号)

平成27年10月
富山市農業協同組合
富山農林振興センター

収量確保のためには、年内生育量をしっかり確保する必要があります。
このため、「排水対策」が十分か再度確認するとともに、分施田では「年内追肥」を確実に行いましょう。

排水対策の徹底

大麦は、ほ場の排水が悪いと根腐れ症状（湿害）が発生し易く、生育不良となります。



播種後は排水溝を水尻に連結させましょう。また、ほ場内の排水状況をこまめに確認し、排水溝等の手直しをしましょう。



基幹排水溝の連結



額縁排水溝を水尻に連結

分施田の播種1ヶ月後追肥の施用

年内追肥は、莖数の増加を促すとともに、穂数や収量の確保に重要な作業です。
播種時期に応じて、遅れないように施用しましょう。

※大麦専用基肥一発肥料を使用している場合は、年内追肥の必要はありません。

【施用時期及び量の目安】

施用時期	肥料名	10aあたり施用量
11月上旬～中旬 (播種1ヶ月後頃)	硫安	20kg

※今後の生育状況により、年内2回目追肥の施用が必要となる場合は、特報でお知らせします。